

にぎわいの部会

の活動でも

にぎわい部会は現在、和田の各地区で行われている行事の調査や昔からの(郷土)料理の掘り起こしを行っています。

和田の各地区で行われている行事は、「ミニミニ(地域)内の繋がりや活性を創り出すために、大切な働きを持っています。」

また、地域で昔から食へられてきた料理は、和田地域外の人達にとって、「目から鱗的な料理」であったり、「体に優しい健康食」であったりします。私達は、地域に伝わる行事や料理を掘り起こし、内外に発信していくことが、和田地域に居住する人達、地域外から来る人達(観光客等)を巻き込んだにぎわいつくりの発信源になるのではないかと考えています。

地域食材を

使った昔料理

の試食会を

開催しました

その一環として、八月二日に、昔料理(郷土料理)の試食会を、にぎわい部会で開催しました。その料理メニューは、

- 『やんごめ』『赤まぜご飯』『白和え』
- 『からなます』『カジキのにぎり寿司』
- 『キウウリの醤油漬け』

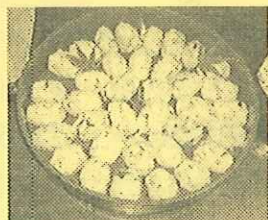
『やんごめ』とは、和田の農村部で田植え時のおやつや



やんごめ

『さなぶり(田植え後の)苦勞中』の時の料理に出されたりしていただいております。材料は、「うるち米」と「もち米」と「あずき」を使います。まず、「うるち米」と「もち米」を鍋やフライパンを使って炒めます。その際使われるお米は、種もみの残りを活用した物のようすが、一方では、「ゆであずき」を作っておきます。そして、炒めたお米に「ゆであずき」と「砂糖」「塩(少々)」「水を加えて炊きます。炊きあがったものを混ぜると「やんごめ」の出来上がりです。

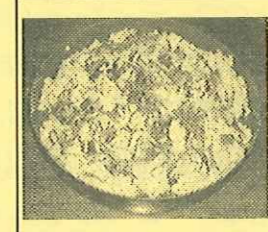
その他の料理は、左の写真の通りです。



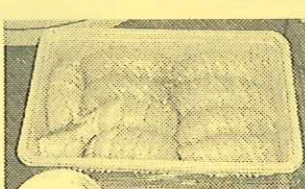
白和え



からなます



赤まぜご飯



カジキのにぎり寿司

カジキは、他のマグロよりも身が白っぽいので、時間が経ってもほとんど変色が目立たず、赤黒くなりません(いつまでも美味しそう)。そんな理由で、和田地域では古くから好んで用いられたようです。勿論、試食品も脂がのって、大変美味でした。

試食のご感想等は、インターネットサイト

『はやけんの Dreams come true 和田地域の郷土料理試食会』

<http://shibusoublog75.fc2.com/blog-entry-278.html>

『和田地域の郷土料理試食会 シナのシキヤウ』でなると「房総ナフ」

http://www.boso-now.com/mc_blog_id_1358.html

でもご覧になれます。こちらはカラーですのび一度覗いてみてください。

にぎわい部会では、右のように地域の行事や料理が「地域おこし」の大きな材料となることを目指しています。出来れば、それが「和田ブランド」として、全国に発信できたりすればいいと、期待を寄せています。是非、地域の皆様方からも、「和田にはこんな自慢できる料理がある」という情報をお寄せ頂ければと思います。電話 47-5955(地域づくり支援員)



協働のまちづくりが市全域に

既に、南房総市の広報等でご存知のことと思いますが、南房総市では、和田、白浜地域に引き続き、富山、富浦、三芳、丸山、千倉地域でも、「〇〇地域を考える会」を立ち上げ、「協働のまちづくり」を進めようとしています。

八月中に、左のように5地区の「考える会」の第1回ワークショップが行われました。

- 丸山地域 三芳地域 八月二〇日(火)
- 富山地域 富浦地域 八月二七日(金)
- 千倉地域 八月三〇日(月)

各地域とも三十数人から八十人程度の地域に住む方々が集まりました。

第一回目は、「地域を

複眼的に見直してみよう」

と、地域の良さや課題を少人数のグループに別れてそれぞれを洗い出しました。

その後、3〜4回のワークショップが開かれ、十二月頃「地域づくり準備委員会」の発足、3月末頃「地域づくり協議会」の発足となる見通しです。

いよいよ、市の提案する「協働のまちづくり」が南房総市内の7地域で具体的にスタートしたことになります。



和田地域の「協働のまちづくり」は

和田地域の「協働のまちづくり」が、他地域と大きく異なる点が一つあります。それは、「地域力創成協議会」が提案したように地域に、「にぎわい」の創出「する」という課題があることです。

市では、旧和田支所や公民館を統合したり、機能を再編したりする中で、支所周辺を中心とした「にぎわいの場」づくりを提示しています。そのイメージの一例が、

平成27年3月に出た

れた「中核施設です。そ

して、すでに公民館と和

田支所の機能は、「ミニ

ティセンター」の中に移動

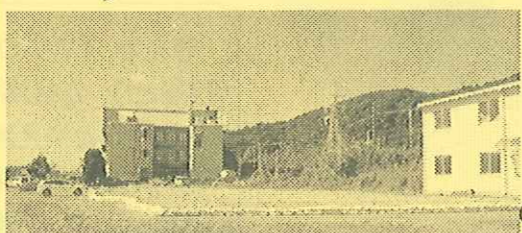
し、その両脇は更地となっ

ています。

「WAO!」の目標は、「わいわいと温

かみのあるおらが町」です。

私たちは、その目標を踏まえ、「ミニミニティセンター周辺に、町内外の人達が集い、にぎわいや元気を創り出すだけでなく、和田地域全体の活性に繋がるよう、中核施設のあり方と活用を考え、具体的に提案をしてい



発行者 南房総市・和田地域づくり協議会『WAO!』
連絡先 南房総市役所和田支所内
地域づくり支援員 田島和幸 白井砂千代
支援員 0470-47-5955
支所 0470-47-3111
FAX 0470-47-4181 (支所)



あいさつをする 佐粧『WAO!』会長

当日は、約70名の地域の皆様が参加して下さいました。

折しも和田地域の8月28日頃は、稲刈りの最盛期にさしかかるところです。その繁忙期にもかかわらず、「やすらぎ」には、各地区の区長さんをはじめ、各団体の関係者約70名にのほろ多くの方々が参加して下さいました。そして、ビデオによる活動報告、講師の講演に熱心に目と耳を傾けて下さいました。

和田地区は、サークル・ボランティア活動が活発だと言われますが、当日の様子からも、その理由を垣間見ることができました。それは、サークルやボランティア団体を支える周囲の理解や支援がしっかりしていることです。

それが、参加して下さいました皆様の様子を通してよくわかりました。



ビデオ取材のまとめの報告をする信川副会長

講演は、こんな内容でした

1. 和田地域の良さを実感して欲しい(和田のここがいい)

- ・温暖な気候、里山、海がある豊かな自然環境
- ・食糧自給率が高い(いろいろな作物等が生産されている)
- ・隣近所のコミュニケーションがしっかりしている
- ・人と人のつながりがあり、顔がわかる関係がある
- ・退職後の地域デビュー支援等 不要
- ・田畑があるから生涯現役

2. 多くの人達がサークル・ボランティア活動に参加

- ・サークル、ボランティア団体に参加している人数 → 共に、のべ300人以上
- ・和田地域の人口が約5,300人ということからすると、非常に高い割合である。
- ・60歳代、70歳代の参加者が殆どのだが、地域住民が両活動の目的である『楽しさ』『やりがい』『生きがい』づくりに、十分に参加している地域だと言える。
- 退職後の地域デビューの支援も殆ど必要ないことが裏付けられる。

3. 地域づくり協議会の支援・サポートとは

- ・調査をしたり、情報を集めたりして、それを地域に分かり易く発信すること。(『わだいすき』などで地域や近隣、県内、全国の情報を)
- ・サークルやボランティア団体等の相談に対応する。
- ・住民と団体、団体と団体、団体と行政、住民と住民、企業と団体とのコーディネート(調整・調和を図る)やネットワーク(組織・関連づけ)づくりをしたりする。
- ・資源提供をする(人材、物品、資金など)

4. 和田の課題は、日本中の課題

- ・少子化 → 子どもを産み育てる環境整備を進める。(地域全体が関わり、育ちを見守る環境づくりを)
- ・高齢化 → 雇用の創出など、企業が出来なくても、住民が出来ることを行う。



講師 牧野昌子さん



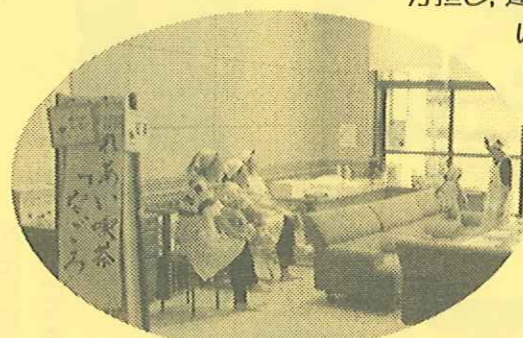
質問から

8月28日(土)

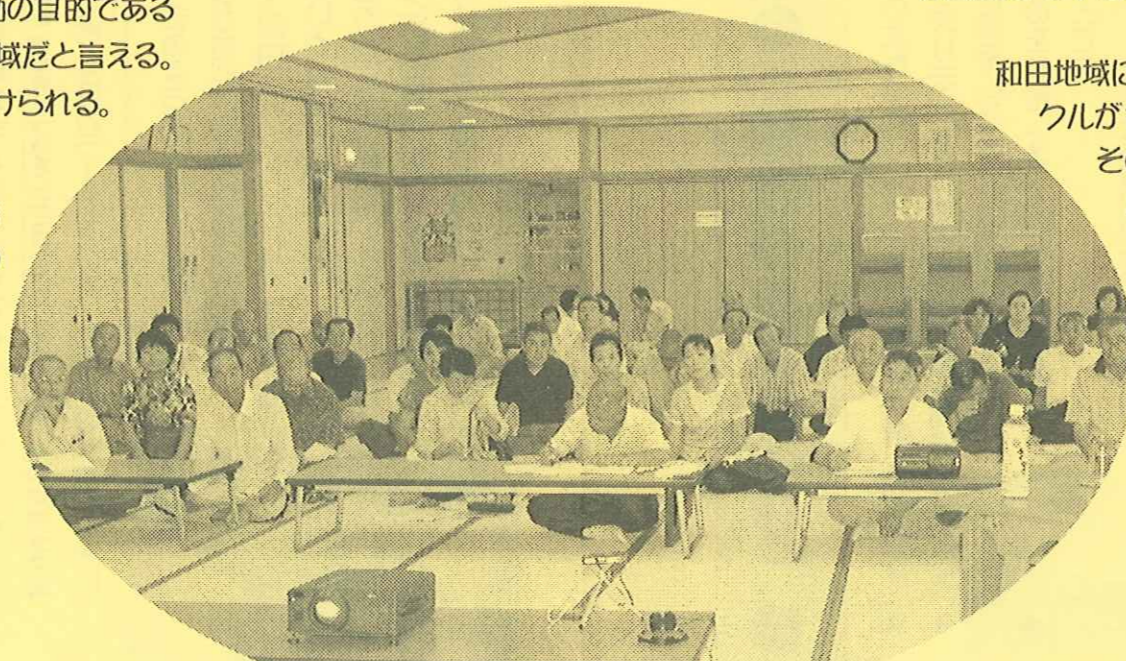
第2回 寺子屋講座 終わる



ロビーの掲示を見る参加者達



ロビーには、ふれあい喫茶『なごみ』も出店して下さいました。



活動の様子(ビデオ画面)を真剣に視聴する参加者達

和田と似たような地域での、サークル・ボランティア活動活性化の成功例があるが

和田地域が最前線!

今、全国で和田地域で行われているような活動が盛んに行われ始めている。住民と行政とが互いの持つ特性や能力を活かして、対等の立場で責任と役割を分担し、連携・協力していく『協働のまちづくり』はこれからより広まっていく。

和田町の成果(課題も含めて)を、是非全国に向け積極的に発信して欲しい。

1. 和田町の良さの方に着目して、それをより伸ばす方向で
2. 子どもたちを巻き込んだプログラムを(将来の地域人材、共に親世代も巻き込む)

メンバーの高齢化等により、人数の増加がなかつたり、活動休止の団体が出たりしているが

和田地域には、人数の小さなサークルが多いようだ。

そのような親密度の高いメンバーの中に、新しいメンバーが加わるのは、なかなか難しい面もある。もし、そのような状況があるとしたら、仲間を集め新しいサークルを立ち上げていくという方法がある。

講演の前に上映した、活動紹介のVTRも有効に活用したら良いと考える。多くの人の出入りする公共施設や病院、銀行などの待合室で、映像を流せば、良い情報発信・共有の機会となる。

そこで、『WAO!』生きがい部会では、さっそく各団体に確認(許可)をとり、公共施設等のテレビで映像を流し、積極的に活動紹介をしていきたいと考えます。

また、上映のご希望のある他団体があれば、これから取材にも伺いたいと思います。ご連絡をお待ちします。47-5955 支援員まで